

自ら設定した主題に向かって主体的に活動する生徒の育成

—自分の表したいことを言語化し、再認識する交流活動を通して—

特別研修員 美術 小林 佐恵子(中学校教諭)

生徒の実態

○発想を膨らませるのに悩んだり、主題がはっきりせず手が進まずに困ったりしている生徒がいる

教師の思い

○発想を膨らませ、自ら主題を設定し、進んで活動に取り組めるようになって欲しい

目指す生徒像

自ら主題を設定し、必要に応じて交流しながら、主体的に表現活動する生徒

題材「あつまれ！甘楽中フレンズ—学校にいる見えない動物たち—」

実際にはその場に存在しないはずの動物たちを「この場所が○○なのはきっとこの動物が○○しているに違いない」というように場所の特徴と動物の特性を関連させて想像し、粘土を用いて立体で表現する題材

過程

出会う

手立て1 自分たちで中心となる考えを見つける交流



表現と鑑賞の双方に働く中心となる考えを見つける鑑賞活動の設定

「百鬼夜行絵巻」と映画「トイ・ストーリー」の比較鑑賞



楽器が人間みたいに動いていておもしろいね



「存在しないものの動きを想像する楽しさ」があるね

今回は存在しないものの動きを想像して作るのだね

広げる

手立て2 自分たちで表したいことを膨らませる交流



アイデアを説明する場面の設定

自分の思い

イメージ

アイデア



本を引き出して、いそうな動物は何だと思う？

いたずら好きの猿だと思ふよ？



図書室の本が、一か所だけ出ていて気になったんだ

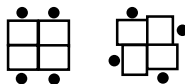
猿よりも、ハサミで本を挟んでいるカニもよいな

表す

手立て3 自分たちで表したいことをはっきりさせる交流



交流しやすいように机の配置の工夫



片足を上げて、本をつかんでいるとよいね

こうするとよいよ



本を取り出ししているカニに決めた！

本をつかんでいる動きが分からないな・・・

振り返る

自分たちでよさをを見つける交流



ふんばっている動きがよいね



図書室の本が一冊出ているのは、このカニが本を読みたくて取り出ししているんです

成果

- 交流によって、多様な思いや考え、アイデアなどに触れることで、新たな発想に繋げていける生徒が多く見られた
- 交流をする際、自分の表したいことを言語化することで、表したいことのイメージが明確になり、表現を工夫できる生徒が多く見られた

課題

- 交流が進まないグループに対して、生徒が学習の中心となる考えを意識しながら、自ら設定した主題に向かって活動できるように、教師がファシリテーターとして適切に支援をする必要がある